

令和8年度 第1回 鳥取市総合企画委員会

日 時 令和8年7月6日（月）13：30～15：30

場 所 鳥取市役所本庁舎6階 会議室6－5～6－8

出席委員 石本昭雄委員、井上紗智子委員、大橋祥子委員、岡村健太郎委員、金塚敬子委員、岸本夕子委員、佐分利育代委員、下田敏美委員、田内伸一委員、竹本哲哉委員、谷口武委員、外山照野委員、中島智子委員、中西照典委員、西垣豪委員、西垣隆治委員、藤原順子委員、船越誉裕委員、山崎昌史委員、山下浩二委員

鳥 取 市 市長・副市長ほか関係部局長、創生企画課（事務局）

<議事概要>

1. 開会（上田企画推進部次長兼創生企画課長）

2. 市長あいさつ

【深澤市長】

- 本年度第1回目となる総合企画委員会にご出席いただき感謝申し上げます。
- 委員の皆様には、日頃より鳥取市政の推進に対して格別なる御理解、御協力、御支援を賜っていることに、この場をお借りして心より感謝申し上げます。
- 今回の委員会は委員の皆様の改選期に当たる。この委員会の委員に就任いただいたことに改めて感謝申し上げます。
- 本委員会は、条例に基づく市の附属機関であり、鳥取市の総合計画や創生総合戦略について、様々な分野から審議、意見をいただく大変重要な委員会である。本日は、第12次鳥取市総合計画と鳥取市地方創生アクションプランについて意見を賜りたいと考えている。また、このアクションプランに先立つ第2期鳥取市創生総合戦略について、外部評価をお願いしたいと考えている。さらに、現在具体的な取組を進めている鳥取駅周辺の再整備について、現時点での取組状況などを報告させていただくので、よろしくお願い申し上げます。
- 御案内のように、現在、国全体として人口減少や少子高齢化が進んでいる状況にあり、鳥取市もその影響を受けている。このような状況の中で、持続可能で発展を続けてい

くまちを目指して、全庁的に一丸となって取り組んでまいりたいと考えている。どうか忌憚のない御意見を賜るようお願い申し上げます。

3 出席者紹介（上田企画推進部次長兼創生企画課長）

4 委員長・副委員長選出

【上田企画推進部次長兼創生企画課長】

- 委員長、副委員長の選出に移らせていただく。
- 鳥取市総合企画委員会条例第4条第1項には、委員会に委員の互選により選出した委員長1名及び副委員長1名を置くとある。互選ではあるが、よろしければ事務局から提案させていただきたいと考えているが、いかがか。

（委員より）異議なし

- 事務局案として、委員長を西垣豪委員、副委員長を中西照典委員にお願いしたいと考える。

（委員より）異議なし

- 委員長を西垣豪委員、副委員長を中西照典委員にお願いさせていただく。
- 西垣委員長及び中西副委員長よりご挨拶をいただく。

【西垣委員長】

- 本日の会議は少し重たい雰囲気を感じており、初めて参加する立場として、この進め方のままでよいのか、もう少し和やかな雰囲気で進めていくほうがよいのかということも含めて、会議終了後でもよいので皆さんの意見を伺いたいと思っている。
- 本日は12名の方が新たに委員に就任しているので、最後の意見交換の場では、ぜひその12名の皆さんから、鳥取市に対して日頃思っていることや様々な意見を述べていただきたいと考えている。せっかくの機会であるため、新任の委員の皆さんの率直な声を聞かせていただければと思う。また、引き続き委員を務めている皆様にも、その後、時間の許す限り意見をいただきたいと考えている。

【中西副委員長】

- 今年4月から鳥取市社会福祉協議会の会長に就任した。就任から3か月が過ぎたところだが、外部から見ていた時とは異なり、内部に入ってみると様々な問題があること

を実感している。

- 本日、このような機会をいただいたことに感謝しており、今後は鳥取市について委員長を支えながら、この会議が皆さんの意見をしっかりと聞き、実りあるものになるよう努力していきたいと考えている。

5 議事（進行：西垣（豪）委員長）

（1）鳥取市総合企画委員会について

（2）第12次鳥取市総合計画及び鳥取市地方創生アクションプランの概要について

事務局より説明【上田企画推進部次長兼創生企画課長】

- 資料1をご覧ください。総合企画委員会の位置づけや職務、今後の審議予定などについて、この資料1で説明する。
- この総合企画委員会は、条例に基づき設置されている市の附属機関である。総合計画や創生総合戦略の審議を通じ、幅広い分野から市政に対して皆様の御意見を述べていただく場である。
- 委員の任期は、令和9年10月31日までとなっている。委員の構成については、先ほど御紹介したとおりである。
- 令和8年度の第1回委員会は本日開催されており、議事の中で説明する内容として、委員の皆様には7月中に創生総合戦略の評価作業をお願いする予定である。そして、第2回委員会は10月を予定しており、第11次総合計画と第2期創生総合戦略の総括、地方創生交付金の実績報告に基づく意見聴取を行う予定である。
- 年度が替わって令和9年度は、7月頃に、本年4月にスタートした新しい地方創生アクションプラン（第3期創生総合戦略）の評価作業をお願いする予定としている。そして、第1回の委員会であるが、10月に委員会を開催し、新しい第12次総合計画、またアクションプランの進捗管理を予定している。
- 第12次総合計画の資料については、継続の委員の皆様には6月上旬に配付している。本日は、新たに就任された委員の皆様のお席に、この第12次総合計画の資料を配付しているので、少し説明したい。
- 第12次総合計画であるが、こちらの少し厚い冊子、これが第12次総合計画であり、昨年度までのこの委員会の委員に策定いただいた計画である。この計画は、本市の長期展望に立ったまちづくりの方向性を定める、本市の最上位の計画と位置づけている。

- 人口ビジョンは、鳥取市の人口減少対策の指針として策定しているものである。このビジョンでは、鳥取市の将来の人口状況を定めており、その目標達成に向けた施策を取りまとめたものが、その下のカラーの冊子、地方創生アクションプランである。こちらが第3期創生総合戦略という、地方創生を進める鳥取市の計画である。このプランに定めている施策は、最上位の計画である総合計画で、特に力を入れて取り組む重点施策という位置づけとしている。実施計画は、総合計画とアクションプランに基づいて実施する計画を定めている。
- 資料2を御覧いただきたい。第12次鳥取市総合計画・鳥取市地方創生アクションプランの概要についてという資料で説明する。
- 第12次鳥取市総合計画の概要の（１）策定の趣旨から御覧いただきたい。総合計画は、先ほども説明したとおり、本市の様々な計画の中の最上位の計画と位置づけている。鳥取市が持続的に発展していくため、市民の皆様や企業、団体の皆様など、鳥取市で暮らす皆様の力を合わせ、オール鳥取市でまちづくりに取り組むための指針となるものと考えている。
- （２）鳥取市の10年後をどうする？を御覧いただきたい。人口減少や少子高齢化など、鳥取市を取り巻く様々な課題に、将来を見据えて的確に対応していくことが今求められている。
- （３）に、まちづくりの理念、挑戦、協働など、（４）目指す将来像、一人ひとりが自分の力を発揮でき、そしてオアシスとっとり、このような理念、将来像を定めている。
- 2ページを御覧いただきたい。2ページの（５）計画の構成と期間であるが、御覧の3つで構成しており、まず、目指す将来像と目標を定めた10年間の基本構想、次に、その基本構想を実現するための施策を定めた5年間の基本計画、そして、その基本計画に基づいて実施していく事業を定める実施計画となっている。そして、この地方創生アクションプラン（第3期創生総合戦略）であるが、人口減少問題の克服に向けて関連施策を位置づけ、総合計画の重点施策という位置づけとしている。
- （６）人口の見通しを御覧いただきたい。グラフは右側3ページであるが、鳥取市の人口は、平成17年の20万1,740人をピークに減少が続いている。令和7年は約18万人となっており、今後さらに減少していくことが見込まれている。
- 4ページを御覧いただきたい。（７）総合計画の体系を御覧いただきたい。図の上か

ら目指す将来像、理念、都市のかたちとあり、この将来像の実現に向けて、その下、左側から「未来を創る人材を育み、ひとりひとりが活躍するまち」などのまちづくりの目標を4つ、それからその右に、子供、教育・スポーツなど、政策を11、そして基本施策として、結婚・出産・子育て支援、教育の充実などの基本施策を31定め、さらにこの図の一番下の土台部分になるが、協働・連携、スマートシティ、こういった自治体運営の基本方針を4つ定め、健康や福祉、教育、経済など、分野横断的に取り組んでいくこととしている。

- 5ページを御覧いただきたい。鳥取市地方創生アクションプラン（第3期鳥取市創生総合戦略）である。
- まず、（1）策定の趣旨であるが、創生総合戦略は、人口減少問題を克服して地方創生を推進する目的で、平成27年度に第1期を策定している。令和2年度には第2期の戦略を策定し、昨年度、第3期戦略を策定し、現在取り組んでいるところである。名称は地方創生アクションプランとしており、これまでの約10年間の成果と課題を踏まえて、「とっとり創生2.0」と題し、鳥取市の地方創生を推進する戦略として策定しているものである。
- （2）計画の期間であるが、総合計画の基本計画と同じく5年としている。
- 3番の人口減少問題に取り組む基本姿勢、4番のプランの基本方針は御覧のとおりである。目標人口を2040年に16万4,000人、2070年に13万1,000人として、人口減少のスピードが緩やかになるよう取り組んでいくこととしている。
- 5番のとっとり創生2.0の政策の柱を御覧いただきたい。強い経済などの3つの政策の柱に様々な施策を位置づけて推進することとしている。
- 6ページを御覧いただきたい。6ページの（6）に、施策の展開という項目がある。こちらに、先ほどの「強い経済」や「豊かな生活環境」などの3つの政策の柱を定め、そこに7つの基本目標、それから重点施策の概要をそれぞれ記載しているので、お読み取りいただければと思う。説明は以上である。

＜質疑・応答＞

【西垣（豪）委員長】

- ただいまの説明について、御質問等はあるか。

（委員よりの質問・意見）なし

（３）第2期鳥取市創生総合戦略の外部評価の実施方法について

事務局より説明【伊藤創生企画課主任】

- 資料3-1を御覧いただきたい。委員の皆様には施策の評価をお願いすることになるが、昨年度が第2期創生総合戦略の最終年であったことから、今年度の評価については、令和3年度から令和7年度までの5年間を通じた最終評価をお願いしたい。
- 評価方法については、資料1ページ下段の赤枠部分であるが、委員の皆様には施策指標の目標値に対する達成度を見ていただき、全ての評価において4段階で評価していただくことが主な評価方法である。
- 資料2ページを御覧いただきたい。こちらには、評価シートの記入例として、この資料では令和6年度の実績を添付している。上の紫枠が基本目標、緑色の枠で基本目標の指標を設定しており、この例では移住定住者数を指標としている。表中の令和6年度の部分を水色の網かけとしており、評価において累計のある場合などは累計で評価している。この場合、令和6年度の累計目標値1,920人、その目標に対しての実績が1,878人ということで、97.8%の達成率となる。この達成率を踏まえ、担当部局で内部評価という欄において、評価及び評価コメントを記載している。そこで、委員の皆様には、青枠と赤枠で囲っているが、内部評価を踏まえ、青枠に1ページ目の4段階で総合評価をしていただきたいと思います。さらに、評価に御意見等がある場合は、赤枠の評価コメント欄に御記入いただきたい。なお、御意見等がない場合は空欄で問題ない。
- 3ページを御覧いただきたい。これは、基本目標を達成するために取り組んだ重点施策を評価するシートであり、評価方法については、先ほどの説明と同様である。
- 4ページを御覧いただきたい。ここには、施策を推進するために実施している具体的な事業の内容と成果を参考として添付している。こうした事業の実績等を踏まえ、評価の参考にしていただきたいと思いますと考えている。
- 資料3-2を御覧いただきたい。委員の皆様が所属しておられる団体等を基に、ひとづくり、しごとづくり、まちづくりの区分で評価の担当を割り当てているので、御確認いただきたいと思います。各委員の皆様が担当する評価書類については、お配りしている薄緑色の封筒に入れている。御多用のところではあるが、返信用封筒もつけているので、7月27日月曜日までに事務局までお送りいただくようお願いする。

- 資料等をデータで希望された委員の皆様については、後日、評価書類をメールでお送りする。もしデータで回答される場合は、メールでの回答で問題ないので、御承知いただきたい。
- 留意事項として、一部の評価指標について、国又は県で集計して公表される数値を採用しているものがあり、現時点で数値が未公表という指標が4件ある。こちらについては、数値が公表された後、改めて該当の委員の皆様には評価を依頼する予定としているので、あらかじめ御了承いただきたいと思う。
- 記入方法について御不明な点があれば、随時事務局まで問い合わせいただきたい。説明は以上である。

＜質疑・応答＞

【西垣（豪）委員長】

- 評価作業を進める中で、共通して確認すべき事項が出た場合には、委員間で共有できるようにお願いしたい。

【伊藤創生企画課主任】

- 承知した。共有が必要な事項は、適宜事務局から案内する。

（４）報告事項 鳥取駅周辺再整備について

事務局より説明【河田都市整備部長】

- 資料4を御覧いただきたい。鳥取駅周辺は、昭和45年から55年にかけて整備されたが、それから約50年が経過し、施設の老朽化が進んでいる。バリアフリーへの対応が遅れていることや公共交通の利便性の問題、さらには、中心市街地の人口減少や若者の流出、空き店舗の増加など、様々な課題が山積している。
- 特に、令和7年度において鳥取市は、都道府県庁所在都市の中で最高の公示地価、平米当たり11万4,000円となっているが、これが全国ワースト1位となっており、町の経済活力の低下が懸念されている。こうした現状を打開するためにも、若者が鳥取に住みたい、戻りたいと思えるような駅周辺の再整備を実現し、市民が集い、交流できる多機能な空間を創出することで、民間投資を呼び込み、地域経済の好循環をつくることを目指している。
- 鳥取駅周辺再整備の取組は令和5年8月から本格的に議論を開始し、令和6年6月に鳥

取駅周辺再生基本計画を策定した。基本計画では、御覧いただいているとおり、「人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS』の創造」を基本理念とし、「次の50年へ。将来を見据えて、未来創造ステーション、ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ」を目指すべき将来像として掲げている。また、①集約型交通ターミナル機能の再編、②まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備、③市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備、④民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備を基本方針として掲げ、下段に記載している3つの整備方針を示した。

- 2ページ目を御覧いただきたい。この基本計画に基づき、バスターミナルや駅前広場、複合施設など、主要な施設の配置や交通動線について、鳥取駅周辺リ・デザイン会議などの専門会議による検討に加え、市民フォーラムやワークショップ、関係団体のほか、学生や若者、子育て世代、障害者団体の方々との意見交換を行いながら検討を進めてきた。
- これらの結果を踏まえ、本年3月に整備計画の素案を一部公表している。御覧いただいているのが、現在公表している鳥取駅周辺の整備イメージ、平面レイアウトである。レイアウトのポイントとしては、まず東側、皆さんから見て右側であるが、現在の風紋広場付近にバスターミナルを移設し、JRとバスの乗り継ぎの利便性を向上していく。コンコースを北側に出たところに北口広場を設置し、街の広がりを感じていただくとともに、県道を減車線化した上で横断歩道を設置し、まちなかへのアクセスを向上していく。
- 次に、多世代の人々が交流し、地域社会の魅力向上につながる居場所、活動の場として整備する複合施設を、北口広場を一体として使えるような配置計画としていく。また、北口のタクシープール、一般乗降場は、今後、より多くの利用が見込まれる複合施設西側に配置していく。駅南側には南口広場を設置し、山白川周辺の憩いの空間と一体となるような整備をしていく。このように、駅の南北を広場空間でつなぐことで南北のつながりを強化し、駅周辺全体のにぎわいの波及と回遊性の向上を図っていくレイアウトとしている。
- 3ページを御覧いただきたい。右側の白い建物が複合施設である。複合施設は、公共機能と民間機能を複合化していくこととしており、民間機能については、今後民間事業者と協議を重ね、望ましい機能や事業手法を決定していく。低層階に整備を予定している公共機能については、人生の様々なシーンに寄り添う居場所として、子育て世

代から高齢者まで幅広い市民の皆様が日常的に活用できることを目指している。また、新しいビジネスや起業、創業への挑戦を支援し、その活動を通じて地域社会の魅力向上につなげていく。駅北口広場と一体的な空間を形成し、従来の公共施設の枠を超えた複合機能で相乗効果を高めていく。先ほども触れたとおり、新たなにぎわい創出、交流、市民活動の拠点として、公共機能と民間機能の複合化により相乗効果を高め、多様な人々の活動を支える場を確保していく。この複合施設と駅舎を、鳥取砂丘をほうふつとさせるデザインをモチーフにした大屋根でつなぐ。新しい駅周辺の顔として印象的なデザインとしている。また、広場空間は、現在の風紋広場の約1.8倍の広さを確保し、中央には緑の空間を配置し、日常的なにぎわいを創出していく。また、イベント会場としても利用できるようフラットな空間をイメージしている。

- 4ページ目を御覧いただきたい。こちらは、駅南口の完成イメージである。南口にも新たな広場を配置し、山白川遊歩道への空間的な連続性を整備していく。南口広場も全体的にフラットな形状で、誰もが歩きやすく滞在できる空間を目指していく。この平面レイアウト、イメージパースは、令和8年3月末時点の内容であり、今後、関係者との協議により変更となる場合があるので、御承知いただきたい。
- 現在は、8月の整備計画案の公表に向けて関係者との協議を進めている。整備計画案の公表後、市民フォーラムや市内15か所程度で予定している説明会の開催を予定しており、整備計画案の説明やVR映像の紹介、まちづくりの専門家などによるパネルディスカッションなどを行う。その後、市民政策コメントを実施し、年内の整備計画策定に向けて取組を進めていく。
- 引き続き、鳥取駅周辺再整備の取組について、御意見、そして御理解、御支援のほど、よろしくお願いする。以上である。

<質疑・応答>

【西垣（豪）委員長】

- 皆様のほうで御質問、御意見等はあるか。

【岸本委員】

- 1つ確認したいのだが、この駅前再整備によって、市が最も実現したいことは何かを教えてください。市民の利便性の向上なのか、観光客の誘客の促進なのか、どちらも見え隠れしてはいるが、どこに大きくかじを取りたいのか、こういう目的に向け

てこの整備をしていきたいというものが、なかなかはっきり見えない。どちらに向かっていきたいと鳥取市が考えているのか教えていただきたい。

【河田都市整備部長】

- 駅周辺再整備は、今言われた観光であるとか市民の交流であるとか、そういったことのどちらにもつながるが、まずは、この駅周辺再整備を起爆剤として、中心市街地の活性化につなげていきたいと考えている。駅周辺再整備を行うことで民間活力を引き出し、駅周辺のにぎわいを中心市街地のほうにつなげていきたいと考えている。

【西垣（豪）委員長】

- この駅の整備計画に関してはリ・デザイン会議もあるが、今後、市民の皆様からも声を聞いていく場はあるのか。

【河田都市整備部長】

- 4月にこの整備計画の素案を公表し、それから市民フォーラムや、オープンハウス型の説明会を市内15か所で予定している。あとは、継続的にやっている市民アンケートなどもあり、そういった市民の皆さんに御理解や御意見をいただく機会を多数設けて整備計画の策定を進めていきたいと思っている。

【西垣（豪）委員長】

- そのようなことも、せっかく総合企画委員会の皆様、委員も務められているので、これから駅の再整備が進んでいくプロセスにおいても、様々な意見があればお寄せいただけたらと思う。よい形で市民の合意を取って前に進んでいくよう、後押しができたらと思っているので、よろしくお願いします。

6 意見交換

【西垣（豪）委員長】

- 本日は、新しいメンバーを12名迎えての委員会で新しい体制のスタートである。新しく就任された12名の皆様におかれては、様々な思いをお持ちであることから、せっかくの機会なので、新しく就任された12名の皆様からご意見を頂戴したいと思う。

【井上委員】

- 福部村が鳥取市に編入された当時、ラッキョウ農家に嫁いだ。
- 砂丘を訪れる県外からの観光客と接する機会が多い。観光客に砂丘の次にどこに行くのかと尋ねると、「コナンの方へ行く」「境港の水木しげるロードに行く」など、鳥

取市外の観光地を挙げる意見が多い。

- 砂丘を観光した後に鳥取市内で訪れるべき場所を尋ねられることがあるが、すぐにおすすめできる場所が思い浮かばないという現状がある。
- 鳥取駅周辺の計画に関する話を聞き、実家が駅周辺にあることから、小さい頃の駅前のにぎわいを思い出した。かつては人通りが多く、買い物も駅周辺で済ませられるほど活気があった。そのような時代に再び戻ることができれば良いと感じている。

【岡村委員】

- 国際交流団体に所属しているが、鳥取市には同様の国際交流団体が多く存在している。行政も多文化共生社会の推進を進めており、団体や個人が積極的に活動に参加している状況がある。
- 最近の統計では、鳥取市内の外国人住民は約2,000人にのぼり、国別ではベトナムの方が多く、主に技能実習生である。加えて、最近ではミャンマーの技能実習生も増加している。外国人住民の国籍が変化していることに伴い、対応する施策も変わってくる必要があると感じている。国際交流団体として今後も活動や支援を進めていきたい。
- また、鳥取駅周辺整備に関して、外国人住民が増加している現状を踏まえ、彼らも参加できるような施設機能を設けることを検討してほしいと考えている。

【金塚委員】

- 移住者として参加しており、今年4月に袋川近くで「シネマドア」というミニシアターを開設し、映画館を運営している。鳥取に移住して約1年半だが、まちなかに人が少ないことを日々実感している。先日大阪を訪れた際、帰鳥後に改めて鳥取の人の少なさを強く感じた。
- 駅周辺の再整備について、複合施設の中身など未定な部分もあると思うが、駅周辺が充実することや交通機関の利便性向上は非常に良いことだと考えている。ただし、現在活動している市街地は駅から少し離れているため、駅から市街地へ人の流れをどうつくるかについて具体的にお聞きしたいと思っている。
- ミニシアターの運営を通じて感じるのは、駐車場の問題である。オープン時に無料駐車券を配布していたが、終了後は客足が減少した。都会と異なり、鳥取では駐車場の有無が集客に大きく影響するため、まちなかに公共駐車場が増えるといいなと考えている。例えば、市役所跡地の無料駐車場「とりこいパーク」のようなものを、まちなかに小規模でも点在させることで、まちなかに来られる方の駐車場の負担を減らせれ

ばいいのではないかと思う。

- 鳥取の人口増加には移住者を増やすことが重要であり、移住者にとって魅力的な町とは文化がある町だと考える。鳥取ではエンターテインメントやカルチャーへのアクセスが難しいと感じる人が多いため、住民や観光客が文化的なスポットやエンターテインメントを楽しみながら回遊できる仕組みをつくりたいと思う。そのためには、例えば、映画館や書店、飲食店などが連携し、スタンプラリーのような取り組みを行うことで、楽しみながら町を歩けるような鳥取になってほしいと考えている。

【田内委員】

- 青谷町総合支所の振興未来会議の会長を務めている。青谷地域は中山間地特有の問題を抱えており、高齢者の増加や少子化、農業の担い手不足による耕作放棄地の増加などが深刻である。
- まちづくりは「人づくり」が重要であると考えており、人づくりをどのように進めるかがこれからの課題である。鳥取では昔から「煮えたら食わあ」という言葉があるが、これは他人がやるのを待って後から参加するという意味であり、こうした姿勢ではなく、住民が最初から参加し、意見をまとめて組織を立ち上げ、積極的に動いていくことが重要だと委員のメンバーに話している。
- 現在進めている取り組みの一つとして「大人食堂」という仮称の活動がある。これは、こども食堂のように高齢者が語り合う場を提供することを目的としている。ただし、組織を立ち上げるのはハードルが高いため、既存の飲食店を活用し、大人食堂の日を設けて月に1回程度開催することで、飲食店の振興も図る方向を検討している。具体化はまだ進んでいないが、メンバーで方向性を決めていきたいと考えている。
- また、地元企業との交流を通じて、地域振興に協力する事業を共同で進めることができれば良いと考えている。青谷を住みやすく、楽しい町にするために今後も取り組んでいきたい。
- 最近、青谷ではイベントが増えており、「青谷はイベントが多い」という声を住民から聞くことがある。これらのイベントは地元住民だけでなく、県外から移住してきた人や町外から嫁いできた人が中心となって進めている。住民としては、こうした人々と協力しながらまちづくりを進めていきたいと考えている。

【谷口委員】

- 佐治地域から参加しており、所属するNPO法人さじ未来は住民組織として、共助交通、

助け合い事業、コミュニティセンターの指定管理、公民館事業、放課後児童クラブの運営などを担っている。行政に頼るだけでなく、自分たちが住む地域を住みやすくするために、住民組織が主体的に役割を果たしている。

- 一方で、2年前に保育園が休園となった影響もあり、佐治小学校の児童数は29人となり、今年は1年生の入学がなかった。来年も同様の状況が見込まれており、地域の先行きに対する懸念がある。鳥取市の総合計画の中で、佐治地域がどのように位置づけられていくのかに関心を持っている。

【外山委員】

- 地域で高齢者サロンを開いている立場からは、高齢者が気軽に出かけられる場所が少ない。
- 鳥取駅周辺の構想については、高齢者でも立ち寄りやすい、使いやすい施設ができればいいと感じた。子育て支援に比べて高齢者への配慮がやや少ないように感じており、もう少し高齢者に優しい鳥取市になってほしいと考えている。

【中島委員】

- 公立鳥取環境大学で経営組織論を専門とし、特に若年層を対象に研究している。もともとは大阪の私立大学で大学事務職員として長年、大学生のキャリア支援に携わってきた。その後、函館の私立大学で3年間、大学教員として勤務し、昨年からは鳥取に着任した。
- 着任以来、鳥取は食生活が非常に豊かであり、地域の方々も穏やかで優しく、温かい人が多いと感じており、毎日を楽しみ過ごしている。
- そうした思いが自然とにじみ出るため、授業中にも鳥取の魅力について話すことがある。すると、県外出身の学生は共感を示してくれる一方で、県内出身の学生は「そんなに魅力的ですか」と驚くことが多い。そのことから、鳥取で生まれ育った学生の中には、鳥取の良さや魅力に十分気づけていない学生が多いのではないかと感じている。
- 県外出身者としての視点も踏まえながら、様々な意見を伝えていきたいと考えている。

【西垣（隆）委員】

- 鳥取いなば農業協同組合に所属しており、農協の職員として勤務している。
- 農業者の高齢化や後継者不足が大きな課題であり、ラッキョウの切り子の担い手不足などもあるなかで、外国の方に入ってもらえるようなことなど、新たな取組を進めている。

- この総合企画委員会への参加を、様々な政策やまちの変化を内側から見る機会と捉え、今後も気づいた点を意識しながら地域を見ていきたいと考えている。

【藤原委員】

- 私は鳥取で生まれ育ち、大学卒業後に鳥取へ戻り、38年間にわたり小学校と幼稚園に勤務してきた。
- 振り返ると、自分が小学生だった頃は、若桜街道や駅周辺に多くの人がいて、とてもにぎやかだったという思い出がある。
- 子どもたちに鳥取の魅力を感じてもらうため、地域に出かけたり、佐治地域で民泊を体験したり、鳥取砂丘に遠足で行ったりしてきた。鳥取の子どもたちは、自然が豊かで食べ物もおいしいということを実感しているはずである。それにもかかわらず、なぜ鳥取で暮らしたいと思わなくなるのか、どこでその思いが途切れてしまうのかということ、教員同士でもよく話してきた。
- 私は小学校勤務であったため、子どもたちとは12歳で別れる。その後、中学校3年間、高校、大学へと進む中で、優秀な子どもたちの多くが県外へ出ていく。そして、大学進学をきっかけに県外へ出た子どもたちは、なかなか鳥取へ戻ってこない。「帰ってこない」のではなく、「帰ってこられない」のだという話も聞いた。理由を尋ねると、「先生、だって仕事がない」と言うのである。県外では仕事があり、友人ができ、さらに恋人ができて結婚し、家を持つようになると、たとえ鳥取に父母が待っていても簡単には戻れないというのである。
- 子どもたちは、ふるさととしての鳥取は大好きで、友人がいるから年に何度かは帰ってきて、家族と過ごすより友人と会っている時間のほうが長いのだと笑って話してくれることも多い。そうした様子を見ると、人づくりには地域の皆さんが熱心に関わっており、子どもたちは多くを吸収しながら成長している
- だからこそ、途切れることなく、将来また鳥取で暮らしたいと思ってもらえるように、人づくり、仕事づくり、まちづくりの3つがしっかりタイアップし、子どもたちが「やっぱり鳥取に帰ってきてよかった」と思えるようなビジョンを示せるよう考えていきたい。

【船越委員】

- 鳥取市で育ち、鳥取市で起業して約20年になる建築系の仕事に携わっている。
- 人口減少が進む中、経営の立場から見ても働き手不足は深刻であり、この鳥取市で会

社をどうしていくかを常に考えている。そのために外国人労働者の採用も進めているが、鳥取市で働きたいと思える魅力づくり、働きたい環境づくり、会社づくりを目指しているが、若手人材の不足はどの分野でも共通しており、今後の協議の中で改善につながればと考えている。

- 所属する青年中央会は、80人から100人程度の経営者、経営幹部、後継者で構成されており、自己研鑽を理念として活動している。自己研鑽だけでなく地域貢献にも力を入れており、湖山池フェスティバルを20年近く開催しているほか、50周年の際にはヤマタスポーツパークを貸し切り、地域や子どもたちのための大規模な遊園地企画も実施した。県外まで行かなくても、鳥取市で子どもたちが楽しめる場をつくろうという思いで取り組んだものである。
- こうした事業を湖山地域で実施してきた背景には駐車場の問題があり、5,000人から1万人規模の集客を伴うため、これまでは駅前での開催が難しかった。しかし、再開発計画では広いイベント会場の整備も見込まれており、今後は駅前での事業展開も視野に入れられるのではないかと考えている。私の周りにも様々な会社や仲間がいるので、よい形でこの取組に関わっていければと思っている。

【西垣（豪）委員長】

- 続いては、引き続き委員を務めていただいている8名の皆様、時間のほうも多分大丈夫かと思うので、一言ずつ、せっかくの機会なのでいただいてもよろしいか。

【石本委員】

- 鳥取市自治連合会は、市内約800の町内会と小学校区単位の41地区自治連で成り立っている組織であり、この自治連の活動には課題が多く、ここで一つ一つ挙げることはしないが、皆さんのお話を聞いていて気づいたことがある。
- 鳥取駅の再開発や鳥取城址の整備が進むことには期待している一方で、駅と城址を結ぶ間の空間については、車で通るたびにシャッターが閉まった店が並んでいる状況を目にし、どうしたものかと思うことがある。
- 中心市街地の活性化を考える上で、こうしたシャッター街の存在は大きな課題であり、後継者不在による閉店や、私有財産・相続の問題など、行政が直接関与しにくい事情があることは理解している。また、周辺住宅地では空き家問題が深刻化し、最悪の場合はごみ屋敷の強制代執行に至る事例も見られる。
- 例えば店舗の今後について悩みを持つ所有者等に対して、積極的に相談を受け付ける

窓口や、仲介を行うような仕組みを整えることができないか、既に取組があるかもしれないが、現状を見るたびに必要性を感じている。

【大橋委員】

- ゆうゆうとっとり子育てネットワークは、各公民館で行われている育児サークルのサポートや、出張による読み聞かせ、手遊びなどの遊びの提供を行っている団体である。
- 家庭では、高校生、中学生、小学生の子どもを育てており、駅前の計画を見ながら、どこを、誰にとって住みやすい町にしていくのかを考えた。
- 第一印象としては、北口は観光客やイベント利用を意識した空間、南側は交通広場として、高校生や大学生、汽车利用者の送迎など、住民が使う空間になるのではないかと受け止めている。
- 子どもが鳥取市内で活動する中では、高校生や中学生の活動に親の送迎が欠かせず、駐車場の問題が常に生じている。イベント時にも駐車場の確保が課題となり、また、バスや汽車の時間の都合で、高校生が乗り継ぎの待ち時間を過ごす場所が少ない実情がある。そのため、複合施設の中に高校生が無料で集える場所があるとよいと感じている。
- また、公共交通についても、朝夕の通学時間帯を含め、もう少し利便性が高まればよいと感じている。普段は自転車通学をしている生徒も、バスを使おうとすると運賃負担が大きく、結局は保護者の送迎に頼ることになりやすい。1本乗り遅れると送迎が必要になり、それが交通渋滞にもつながっている。
- さらに、自転車のルール改正が進む中で、駅前は整備されても高校周辺は工事などもなく、小学生の通学支援に関わる中でも危険を感じる場面があり、小さい子どもだけでなく、中学生、高校生、大学生に向けた計画としないとこれは確かに外に出ていってしまうなと実感している。

【岸本委員】

- 鳥取観光コンベンション協会では観光事業課や物産課を通じて観光振興に寄与しており、行政の方々と非常に密接に関わる機会が多い。市役所の方々とも日頃からお話することが多いが、普段はなかなか言いづらいことも、この場をお借りして協会の役に立つ意見をお伝えできればと思い、参加させていただいている。
- 家庭では子育てをしており、地域に根差した教育の中で子どもを育ててきたが、近年はコロナによって環境が大きく変化し、子どもたちの価値観も大きく変わったと感じ

ている。総合計画の基本構想を5年、10年の単位で考えたとしても、そのまま当てはまり続けるとは限らず、時代の変化や流れに応じて柔軟に見直し、合わせていく必要があると感じている。

- 今回の評価に関しては、KPIに基づいて委員が評価を行うことになるが、そのKPIが総合計画のどの目標を達成するために設定されたものなのかを確認できるようにしてほしいと考えている。KPIの設定根拠が分かれば、より適切に評価しやすくなる。また、これまでに出てきた課題や今後取り組むべき課題が、そのKPIの目標設定の中にもどのように組み込まれているのか、どこを見れば確認できるのかも知りたい。必要であれば後日でもよいので、確認できる資料や箇所を示してほしい。

【西垣（豪）委員長】

- 今の最後の話は評価に関わることなので、この場で答えられることがあればお願いしたい。

【上田企画推進部次長兼創生企画課長】

- 評価に当たっては、各施策の柱に設定されているKPIについて、なぜその指標を設定したのか、その狙いや考え方が分かれば、委員としても評価がしやすくなるのではないかと趣旨で受け止めているが、その理解でよいのか。

【岸本委員】

- そのKPIの目標設定をした根拠が知りたい。

【上田企画推進部次長兼創生企画課長】

- 各施策に対して、なぜそのKPIを設定しているのかという点については、教育から福祉まで幅広い分野にわたるため、それぞれの事業ごとに市役所の担当部局が狙いを持って定めている。項目数も多いため、その内容を整理した上で、改めて報告する。

【佐分利委員】

- 鳥取市文化団体協議会は、鳥取市内で舞台や展示などの文化活動を行っている団体の集まりである。外から来るエンターテインメントは少ないが、所属する64団体のうち、今年は45団体が市の補助を受けて公演や展示を行っている。そのほかにも、文化団体が利用する施設への補助を受けており、文化団体として活動を続けている。コロナ禍では、鳥取大学の若いグループで部員がいなくなり活動できなくなった例もあったが、現在は少しずつ復活してきていると感じている。会員は小学生から高齢者まで幅広い。

- にぎわいづくりについては、まちの空洞化を感じている。若桜街道を車で通ると、非常に空っぽな印象を受ける一方で、鹿野街道ではそこまで空虚さを感じない。その違いは、人が住んでいるかどうかにあるのではないかと考えている。若桜街道は店舗中心で居住者が少ないため空洞化して見えるのであり、郊外から人が戻って住むような形ができれば、印象も変わるのではないかと考えている。駐車場の整備や、物産館跡地に大型ショッピングセンターをつくるなど、住みやすい若桜街道にしていくことができれば、駅からまちに出たときに「にぎわいがない」という寂しい感じもなくなるのではないかとと思う。
- また、高校生の居場所について、文化センターやとりぎん文化会館にいと、フリースペースやギャラリーに高校生が夜にいる姿を見かけることがある。その周辺を高校生たちが居場所にするというのはどういうことなのだろうか。そうしたこともまた話し合っていければと考えている。

【竹本委員】

- 本日の話を通じて、大きく2点を考えている。
- 1点目は、少子高齢化と人口減少をいかに解決していくかということであり、これは鳥取駅前の再整備にもつながる課題である。移住者数は増えている一方で、人口減少の要因は自然減に加え、進学で県外に出た学生が帰ってこないことにあると受け止めている。高校再編の議論がある中でも、高校生数が減る一方で学校数が同じであれば定員割れは当然起こるし、授業料無償化によって私立高校へ流れるのも自然な流れであると感じている。
- その上で、大学進学後に若者が帰ってこない背景には、「鳥取には働く場所がない」という認識が強いことがあると感じている。本人は帰郷を考えていても、保護者が就職先がないと考えて帰郷を勧めないケースも多い。その原因の一つとして、中学生や高校生が地元企業をよく知らないことが大きいと考えている。弊行でもインターンシップや金融教室に取り組み、子どもたちに地元企業や仕事への関心を持ってもらう機会をつくっているが、こうした取組は実業高校だけでなく、進学校の中高生にも広げていく必要があると考えている。大学進学前から地元企業を知り、県外に出ても帰ってくる仕組みを、自治体と企業が一体となって構築していくことが重要である。
- 2点目は、一度県外に出た若者への働きかけである。新規採用に苦労する中で、関西圏の大学からは比較的帰ってくる一方、関東圏からは戻りにくい傾向を感じている。

首都圏で就職した若者の中には、数年後に働き方や暮らし方を見直したいと思う人もいるはずであり、そうした人たちに鳥取での中途採用やUターン就職の可能性を積極的に伝える必要があると考えている。地元企業が中途採用を歓迎していることを発信し、連絡や相談がしやすいプラットフォームのような仕組みも必要ではないかと感じている。

- 駅前については、リ・デザイン会議の委員としても関わっており、非常に意義のある取組だと受け止めている。かつては鳥取駅前へ行くことを「町に出る」と言っていた時代があり、もう一度それを取り戻すためにも、人が集い、人流を変えることが必要である。現在は湖山周辺で生活が完結し、駅前まで来る機会が少ないが、駅前でしか得られない機能や魅力を持たせることで、人を呼び込む必要があると感じている。シネコンのような施設や、駅と一体となった商業機能など、小規模でも人が集まる仕掛けを整えることが重要であり、行政と民間が一体となって進めていくことが必要である。今後も民間の立場から協力していきたいと考えている。

【山崎委員】

- 毎年、年末に中心市街地活性化の特集を組んでおり、シリーズではないが、テーマを替えながら発信している。これまで話題に上がってきた鳥取駅周辺再整備についても、中心市街地活性化のよい起爆剤になると考えており、報道や企画を通じてしっかり取り上げていきたいと思っている。
- ただし、駅周辺だけでなく、中心市街地全体、さらに県庁までの間にある空き店舗なども含め、関係する人たちの意識が変わり、一緒に連動して動いていくことが必要だと感じている。そのような視点も含めて紙面で継続して取り上げている。
- 仕事の関係で県内各地を回っており、倉吉や米子でも、中心市街地と呼ばれる場所は同じように空き地や高齢化、若い世代の減少といった課題を抱えていると感じている。一方で、その中でもイベントを行っている人たちは、地元の中心的人たちに加え、移住してきた人たちが旗振り役になっていることがあり、業務を通じて関わる中で多くを学んできた。そうした点と点の取組が線となって、大きな活力を生み出していくのだと思っている。実際、倉吉や米子では毎年イベントやビールフェスなどが開催され、翌年にはさらに規模を大きくして実施している例もあり、非常に参考になっている。
- 今月には計画が公表されるとのことだが、こうした内容をどのように発信するかが重

要だと考えている。新聞の購読世帯は減少し、無読者層も広がっているため、新聞は高齢者が読むものという見方が強いが、近年は少し変化も出てきている。広告営業の中でも、若い客層が来るようになったという声を聞くことがある。これは、新聞だけでは右肩下がりになる中で、ウェブ、動画制作、SNS発信なども含めて展開していることが影響していると感じている。鳥取市とも、鹿野や青谷などに関わる発信でそうした取組をしているが、発信の仕方一つで、どの層に届くかは大きく変わる。新聞記事でもSNSと組み合わせることで若い人が来るようになったり、弊社の夏のイベントでも親子連れの来場につながったりしており、一定の成果を感じている。

- 鳥取駅周辺整備のような少し硬い計画についても、どれだけ幅広い世代に見てもらい、どのような意見が返ってくるかが大切である。若い世代も含めて「こうあってほしい」という思いを聞き取れるような情報発信の仕方や、意見の集約の仕方ができれば、計画そのものもさらによいものになっていくのではないかと考えている。そして、それをきっかけに中心市街地の関係者が動き、その先の人たちも新たな取組を考える流れができればよいと感じている。
- どの自治体も同じような課題を抱えており、簡単に進む話ではないが、やはり目線を変えることは必要だと日々の仕事の中で強く感じている。メディアも媒体も多様化しているが、それも使い方次第であり、発信する側の意識が少し変わるだけでも成果は大きく変わってくる。そうしたことも含めて、この委員会の中で話を聞いたり、自分から話したりしながら関わっていきたいと思っている。

【山下委員】

- 連合鳥取東部地域協議会は、企業内の労働組合が集うナショナルセンターとして活動しており、東部地域では25の産業、95の企業内労働組合で構成され、全体で約1万人の組織となっている。
- 先ほどから働く場所がないという話も出ているが、労働組合の立場で賃上げの取組を進める中では、鳥取の賃金水準がかなり低いことを強く感じている。都市部とは生活コストなどの違いもあるとはいえ、学生が県外に出たまま帰ってこない背景には、鳥取市や鳥取県内に大手企業が少ないことも一因としてあるのではないかと考えている。県内は中小・零細企業が多く、人手不足という話はよく聞く。働く場所そのものが全くないわけではないが、魅力のある就職先や賃金水準という点で見ると、全国平均より5万円から6万円ほど低いという調査結果があり、若者が都会に出て、そのまま帰

ってこないのは、遊びもそうだが、企業間の所得・給料面を踏まえるとやはり普通に考えて帰ってこないだろうなというところがある。

- 鳥取大学の学生と交流する機会もあるが、県外から来ている学生に対して、4年間鳥取で学んだのだからそのまま鳥取で就職してはどうかと話しをしても、多くは地元に戻るか、鳥取を離れてしまう。また、地元出身で鳥取大学に進学した学生も、県外の状況を見ながら、卒業後は県外に出ていくという話をしている。働く立場、労働者の立場から見ると、こうした地域間格差はかなり大きく、若者に選ばれる鳥取市、鳥取県になっていくには、かなり高いハードルがあると感じている。
- この人口減少を、今、自然増は見込めない状況の中で、どうやって鳥取に残ってもらうのか、鳥取に来てもらうのかというところを試行錯誤しながら、何とか頑張っていきたいと思う。

【中西副委員長】

- 働く場所がないという話があるが、具体的に工場誘致や工業団地の整備について、鳥取市がどのように取り組んでいるのかについて、後ほど伺いたい。
- 地域のまちづくりや自治会、社会福祉協議会、交通安全協会など、各地域には様々な団体が存在しており、それらの団体が拠り所としているのが公民館である。公民館は、地域の人々が集まり、地域の事業を進めている。
- 私は、公民館の在り方については考えないといけないと考えている。以前は教育委員会の管轄であったが、現在は協働推進課が担当している。公民館に行って福祉のことを聞いたりしてもなかなか関わっていただけないことがある。公民館の方は一生懸命対応してもらえるが、例えばいろいろな会議のお金を公民館に預けたくても協働推進課は駄目と言う。
- 公民館を、福祉や教育であっても、一応何でも応えるし、何でも言ってもいいというようなことにする。公民館を、地域のにぎわい、地域の福祉、地域の体育など、拠点として、もう少し公民館の在り方を考え直していただきたい。

【西垣（豪）委員長】

- 何年にもわたって鳥取市が示す評価を基に重要な議論を重ねていくことになるが、商工会議所副会頭や観光コンベンション協会会長として様々な会議に参加する中で、意見が重複したり、相反する意見が出たりすることがある。
- 答えを一つに定めるためには、十分な議論を行い、何を中心に物事を進めるのかを明

確にする必要がある。また、市民としてどの程度責任を持って発言するべきかという点も重要である。

- 鳥取市が進める駅周辺のリ・デザインについては、近い将来、方向性を決める時期が来る。議論の内容や立場を知らない人に情報を伝え、このまちが何を目指しているのかを掘り下げることが必要である。関係者が連携して議論を深め、より良い形でまちづくりを進めていきたい。
- 本日の委員会では多くの意見を聞くことができた。これらの意見を基に、鳥取市と力を合わせながら取組を進めていく考えである。

【西垣（豪）委員長】

- それでは、最後に市長から総括をいただくと聞いているので、総括をお願いします。

【深澤市長】

- 長時間にわたり、各委員から多様で貴重な意見をいただいたことに感謝する。ご意見を通じて、現在の鳥取市が置かれている状況や課題、問題点が改めて明らかになったと受け止めている。
- 人口減少や少子高齢化が進む中、その要因として、若い世代が進学や就職を機に市外・県外へ転出し、そのまま帰ってこないことによる社会減や、少子化に伴う出生数の減少があると考えている。背景には様々な要因があるが、それらをしっかり見極めながら、人口減少や高齢化が進んでも活力があり、持続可能なまちづくりをどう進めていくかが重要である。
- 鳥取市では現在、駅周辺の再生に取り組んでおり、近いうちに整備計画を取りまとめ、市民の皆さんに示し、幅広く意見をいただきながら、できる限り計画に反映し、今後の方向性を先送りせずにとまとめていきたいと考えている。高校生や学生がバスや列車を待つ場所、高齢者が出かけやすい空間の必要性についても話があったが、それらは駅周辺再生の狙いの一つであり、駅周辺だけでなく市街地全体、さらには鳥取を含む圏域全体のにぎわい創出へとつながる取組にしていきたい。
- 約50年前の鳥取駅高架化や駅前整備を振り返ると、当時は大きな変化があり、まちの象徴的な出来事であった。現在は人口減少や少子化、通過交通の減少といった状況の中で、歩行者優先の空間へと再編していくことが求められている。また、若桜街道、智頭街道、鹿野街道のにぎわいをどう取り戻すかも大きな課題である。
- 中心市街地については、「二核二軸」のまちづくりという考え方がある。商業施設が

集積する駅周辺と、城跡を中心とした歴史文化ゾーンを2つの軸とし、若桜街道と智頭街道で結ぶ都市構想を基本にしながら、にぎわいの回復を図っていきたい。

- 中心市街地活性化には平成19年11月から取り組んでおり、現在は第4期中心市街地活性化基本計画に基づいて進めているが、今後は第5期計画も策定し、駅周辺再生と連動させながら活性化を進めていきたい。
- 情報発信と情報収集の重要性についても改めて認識しており、6月定例会で関連予算の可決もいただいたことから、その仕組みをさらに強化していきたい。厳しい状況の中でまちづくりを進めていくにあたり、総合企画委員会の委員の皆さんと一緒に頑張って鳥取のまちづくりを進めていきたいので、引き続き協力をお願いしたい。
- また、KPIの根拠や、過去の課題がどのように反映されているのかという点については、それぞれのKPIがどういう考え方で設定されているのかを、もう少し分かりやすい形で整理し、改めて委員の皆さんに示したいと考えている。
- 長時間にわたり議論いただいたことに、重ねて感謝申し上げたい。

5. その他

(特になし)

6. 閉会